

『知的障害者に導かれた企業経営から皆働社会実現への提言』

講師 日本理化学工業株式会社 会長 大山泰弘

平成26年9月6日、青森県総合学校教育センターにおいて、日本理化学工業株式会社 会長の大山氏による講演が行われました。

国内シェア 30%を持つダストレスチョークメーカーである日本理化学工業では、先進的に障がい者雇用に取り組んでからすでに半世紀。従業員数も 81 人中 59 人の知的障がい者を雇用しているという実績があります。そういった会社の会長を招いて講演が聞けるとあって、多機能型就労支援事業の 4 名が参加しました。

講演では知的障がい者を雇用するきっかけとなったエピソードや、知的障がい者の『無言の説法』のおかげで、多くの“気づき”をもらったという大山氏の人生観に大きな影響があったこと。その中でも、筆者がハッと感じた言葉がありました。「人間の究極の幸せとはなんですか？それは4つあります。人に愛されること。人にほめられること。人の役にたつこと。人から必要とされることの4つです。働くことによって、愛以外の3つの幸せは得られるのです。そしてその愛も、一生懸命働くことによって得られるものだと思う。」という、人が生涯働き続ける本当の理由を教えられました。

誰もが働ける社会『皆働社会』、

就労継続支援 A 型の職業指導員として、利用者にこの4つの幸せを実感してもらうには、どのように支援していけばよいかという新たな課題をもつことができました。

また、講演では障がい者を雇用することによって生じる課題とその改善策などが具体的に紹介されました。例えば作業工程を言葉だけで社員に伝えるのではなく、視覚的作業工程図（絵カードなど、または色分け）のようなものを使って作業工程を覚えてもらっているということでした。つまり視覚的構造化です。

その他、紹介されたエピソードについて以下に示します。

- 1、 字が読めないが信号の色を見て交通ルールが守れる、といったことに着目し、指示内容を構造化することで生産量を落とさないことに成功したこと。
- 2、 なかなか就労定着しなかった中軽度の知的障がい者に対し班長制度を取り入れたことで障がい者同士の意識改革にも成功した。

以上、実践的な話を聞くことができました。

『皆働社会への実現』、それは福祉と雇用を受け入れる企業が共に手を携えて実現したい社会だと思いました。

就労継続支援 A 型／みのり
職業指導員 大里